

11日(木)

「特定有人国境離島地域に係る地域社会の維持に関する特別措置法」の意見書(木村議員作成)を読む。

今後、経常委で検討し、執行部と調整後、取りまとめとなる見込み。

12日(金)

死者の連絡を受け、葬儀執り行ないの次第を長栄寺に要請。

13日(土)

葬式の準備と火葬、夜は通夜に出席。



14日(日)

早朝から北朝鮮のミサイル発射のニュースを各メディアが報道。聞く耳を持たない独裁国家に恐怖を感じる。

午後から葬儀に参列。

\* \* \*

15日(月)

東京都町村議会議員研修に上京。

16日(火)

アジュール竹芝で午後3時半から前述の研修会。終了後、町村議員の懇親会。

17日(水)

村議会の視察研修。朝8時20分に島しょ会館を貸切バスにて出発。伊豆市へ向かう。

18日(木)

天城温泉プールを視察。夜、東京へ戻り一泊。

19日(金)

朝、高速船で帰島。  
\* \* \*

●山本 一磨

20日(土)

観光協会事務局で温泉、海浜等のインフラ整備の意見交換。

船客待合所の完成後の使用に関する諸課題を予定者から事情聴取。

21日(日)

農地法第3条の許可後の所有権移転の相談等を受ける。

22日(月)

6月8日予定の三宅都議との意見交換会の出席者等の調整。

23日(火)

都内にて術前準備。

24日(水)

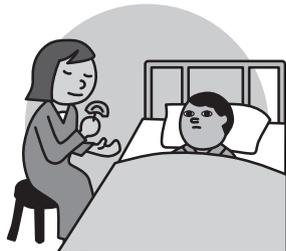
前日に同じ。

25日(木)

入院

26日(金)

退院



## アイ 副議長の目ランド

美人投票(美男子投票でもよいが)とは自分が美人だと思ふ人に投票するのではなく、世間一般に美人だと思われている人に投票する(みんなが投票するだろう人に投票する)と喝破した著名な経済学者がいた。これは経済は単に統計数字だけでなく、人々の心理的要素によって影響を受けることが多分にある、ということを書いたかったのだと思う。

なぜこんなことを思い出したかというと、今回の都議会議員選挙では都民ファーストの会が圧倒的な勝利を治めた。そして自民党所属の候補者は惨敗を喫した。どうしてなんだろう?おそらく都民ファーストの会の候補者の来歴や実績を知って投票した人はあまりいなかったのではないかと推測する。小池都知事の率いる地域政党だから、この一点に集約された

のではないか。選挙前からマスコミへの露出が多く、一定の流れというか、ブームを創り出していたように思える。要するに小池都知事なら東京を変えてくれる、そのためには都議会で彼女を支持する政党が過半数を占めなければならない。だから都民ファーストの会を応援しよう、そういう流れが出来上がったと言えないだろうか？

どのようにして？これが恐いところでそういう空気が情報を通じてなんとなく醸成されたような気がするのだが。美人投票と似た心理で（もちろん特定の候補者をよく知っていて信頼を寄せて投票した人もそれなりに存在したのは論を待たない）。

それから国一都道府県一市区町村の系符で政党の結びつきをどのように捉えるか、という問題がある。国と都道府県レベルでは政党とのつながりが強くても仕方がない面があると思う。特に現在の衆議院の小選挙区制を考えると都道府県議会で活躍した議員が上位を目指して国政選挙に打って出る、これは流れとして不自然ではない。だから政党を看板に掲げるには十分に意味があると思う。

しかし市区町村レベルではどうだろう？どのような政治信条を持つかにもよるが、私は必ずしも国政と同じ政党色を出す必要はないように思う。現に我が村のことを念頭に置くと政党による与野党対立なんてないし、ほとんど保守系無所属だろう。

今回の選挙は首相の対応のまずさや大臣の失言が大いに影響したと一部、報道ではあった。実態はわからないが、国と都の政党の結び付きが強ければ、そのように理解されても致し方ないかもしれない。

私たち村の議員はどういう政治的立場を取るべきか？中央の政治動向を知ることは大事なことではあるが、それよりも地域社会を基盤に日常の草の根活動に徹すること、こちらに重点をおくべきことを再認識させられた、そんな風に思っている。もっとも今回の島しょ地区の選挙結果を見ると世間の風潮とは関係なく、心配するに及ばない、そういうことかもしれない。ある意味今の強固な政治体制に有権者が息苦しさを覚え、風穴を空ける役割を都民ファーストに委ねたと言えなくもない。

いずれにしても今回の一連の動きは地方議会の議員はどうあるべきか、改めて考えさせるキッカケを与えてくれたことに感謝すべきだろう。

（副議長 山本 均）

※今号は議長が体調不良のため副議長が代わって執筆した。